

オホーツクの森に子ども達の歓声が響く

常呂川森林ふれあい推進センターと森林ボランティア「オホーツクの会」が共催で、夏休みの初日となる7月26日(土)に、オホーツクの森において、小学生24名(1~6年生)が参加して、こども探検隊を実施しました。

当日は、シベリアでの森林火災の影響によるPM2.5?のためか、曇り空で北見地方での連日の猛暑から解放された気温となり、熱中症を気にしないで、たくさん体を動かせる絶好の探検日和となりました。

最初に、様々な地域から集まった子ども達なので、オホーツクの会の会員により、アイスブレイクやこれから森林の中で捜し物をしてもらうための目慣らしとして、カモフラージュを行いました。



(アイスブレイクで輪をくぐる)



(カモフラージュで、合っているかな?)

午前中は、4つの班に分かれて、3つのミッション(フィールドビンゴの完成、松ボックリの収集、珍しいものの収集)をクリアするべく、みんなで協力しながらオホーツクの森の中を探検しました。途中、ハンディー無線を使って、本部へ定期連絡してもらい、進行状況を報告する体験もしました。



(隊長より指令を受ける)



(ビンゴの「キツキの穴」を発見)

昼食後、昼休みには、オホーツクの会の会員の方がロープワークで作成したブランコやターザンロープで遊んだり、すぐそばの小川で小魚を探したりと、休みなく動く子どもたちでした。



(手作りブランコを楽しむ)



(何か見つけたかな?)

午後からは、夏休みの自由研究にも使えるクラフトづくりに挑戦しました。一つは木の枝の二股を使って、パチンコを作成し、それを使って、ナナカマドの実を飛ばしてみました。もう一つは、午前中に拾ってきた松ボックリを使って、グルーガンを利用してフクロウ作りを行いました。



(的に当たるかな?)



(フクロウ作り)

午後は少しずつ雨模様となりましたが、1日中いっぱい、森の中を満喫することが出来ました。参加した子ども達からは来年もぜひ、来たいといううれしい言葉を聞き、皆、笑顔の一日となりました。スタッフ、ご苦労様でした。

